

| 1-1 建物概要 |  | 1-2 外観 |             |
|----------|--|--------|-------------|
| 建物名称     | (仮称) 茅ヶ崎市赤松町マンションプロジェクト                          | 階数     | 地上10F       |
| 建設地      | 茅ヶ崎市赤松町1088番1ほか2番<br>(赤松町地区土地区画整理事業地内1街区1-1、1-2) | 構造     | RC造         |
| 用途地域     | 第一種住居地域、準防火地域、第三種高度地区(絶対高さ31m)                   | 平均居住人員 | 1,408 人     |
| 地域区分     | 6地域  | 年間使用時間 | 8,760 時間/年  |
| 建物用途     | 集合住宅   | 評価の段階  | 実施設計段階評価    |
| 竣工年      | 2018年1月 予定                                       | 評価の実施日 | 2015年12月21日 |
| 敷地面積     | 11,631.49 m <sup>2</sup>                         | 作成者    | 株式会社IAO竹田設計 |
| 建築面積     | 4,589.87 m <sup>2</sup>                          | 確認日    | 2015年12月21日 |
| 延床面積     | 30,316.81 m <sup>2</sup>                         | 確認者    | 株式会社IAO竹田設計 |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外の: 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④ 上記+: 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

| 3 設計上の配慮事項  |   |   |
|---|---|---|
| 総合  | 敷地内の道路境界、隣地境界部分については、緑を多く配置し、町並みの雰囲気づくりを行っている。アースカラーを基調色とし、周辺環境との調和した外観計画としている。         |   |
| その他   | 0   |   |
| Q1 室内環境   | Q2 サービス性能   | Q3 室外環境(敷地内)  |
| ・日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」等級4を取得。<br>・F☆☆☆☆、VOCの放出が極めて少ない部材の採用。<br>・昼光率2.20% | ・光ファイバーの設置。<br>・日本住宅性能表示基準、劣化対策等級3を取得。<br>・非常用発電設備の設置。<br>・バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。 | ・現状の周辺環境に配慮し、奇抜な色を避け、アースカラーを基調色とし、周辺環境と調和した外観計画。緑を多く配置することによって周辺環境への雰囲気づくりを行っている。 |
| LR1 エネルギー   | LR2 資源・マテリアル  | LR3 敷地外環境   |
| ・日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」等級4を取得。<br>・HEMSの導入。<br>・太陽光パネル設置。                 | ・節水型便器の採用、キッチン、便器に節水器具を採用。<br>・雨水利用システムの導入。   | ・指導対策量を満たし、それ以上の雨水処理対策を実施している。<br>・駐車場67.32%、駐輪場153.97%、荷捌き駐車場設置。<br>・ディスプレイの設置。  |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される